

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成22年1月14日 (2010.1.14)

【公開番号】特開2009-77772(P2009-77772A)

【公開日】平成21年4月16日 (2009.4.16)

【年通号数】公開・登録公報2009-015

【出願番号】特願2007-247486(P2007-247486)

【国際特許分類】

D 0 6 F 25/00 (2006.01)

D 0 6 F 58/02 (2006.01)

D 0 6 F 58/28 (2006.01)

【F I】

D 0 6 F 25/00 A

D 0 6 F 58/02 F

D 0 6 F 58/02 Q

D 0 6 F 58/28 A

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月9日 (2009.11.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 1】

ステップ S 1 0 6

温風脱水を実行する。温風脱水は、送風ユニット 2 8 を低速回転で運転し、ヒータ 3 1 に通電（強モード）して温風を洗濯兼脱水槽 3 内に吹き込み衣類の温度を上昇させる。同時に、洗濯兼脱水槽 3 を高速で回転させ温まった衣類から効果的に水分を脱水する（温度が上がると水の粘性が低下するため効率よく脱水でき、乾燥時間を短縮できる）。温風脱水時に、送風ユニット 2 8 を低速回転するのは、脱水時には洗濯兼脱水槽 3 を高速回転するのに必要なモータ 4 の電流が大きいいため、脱水中に送風ユニット 2 8 を高速回転すると許容電流値（日本の商用電源では 1 5 A）を超えてしまうからである。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 5】

なお、衣類の量が多いほど衣類全体を温めるのに時間が掛かるため、温風脱水の時間は、衣類の量が多いほど長くする。本実施の形態例では、次のように設定している。布量が 1 kg 未満の場合は約 1 1 分、1 ~ 2 kg で約 1 5 分、2 ~ 4 kg で約 2 3 分、4 ~ 5 kg で約 2 7 分、5 ~ 7 kg で約 3 2 分である。また、定格回転数は衣類の片寄り具合（アンバランス量）に応じて毎分 8 0 0 から 1 6 0 0 回転の間で制御している。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 7 7 】

ステップ S 1 1 3

乾燥開始からの経過時間が既定の時間になったかどうかを確認して処理を分岐する。規定の時間は、衣類の乾燥度（＝乾布の質量 / 湿布の質量）が 0.9 に達する時間より前に設定する。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 8 2

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 8 2 】

乾燥コースが選択されている場合は、ステップ S 1 1 2 の後、本ステップの乾燥運転 2 を実行する。乾燥コースは乾燥のみを行うコースであるが、使用者が乾かそうとしている衣類の乾燥状態（乾燥度）は様々である。例えば、乾燥度が低い（脱水直後）の衣類の場合、ステップ S 1 0 7 からスタートしたほうが、衣類の温度を速く上げることができるため、乾燥時間を短くできる。しかし、乾燥度が高い衣類の場合、短時間で乾くので、ステップ S 1 0 7 を実行すると、しわの発生する確率が高くなる。早い時期から送風ユニット 2 8 を高速回転しなければ、しわの発生する確率が高くなる。また、洗濯乾燥機で洗濯兼脱水槽 3 に投入された衣類の乾燥度を検知することは困難である。